



図 4 Photometric Atlas of the Solar Spectrum λ 3000 to 10000

が有名である。ここでは、波長 3229 Å から 5328 Å までの範囲の 3000 本以上の彩層輝線の波長・強度・同定された元素名、輝線のみえる高さなどが、その輝線に最も近い太陽吸収線の波長と共に収められている。この種の表の新しいものとしては、

- (14) The Chromospheric Spectrum at the 1962 Eclipse.

R.B. Dunn, J.W. Evans, J.T. Jefferies, F.Q. Orall, O.R. White, J.B. Zirker.

Astrophysical Journal Supplement Series
Vol. 15, No. 139 (1968)

が最も包括的であろう。1962 年 2 月ニューギニアのラエに遠征したアメリカ High Altitude Observatory, Sacramento Peak Observatory, National Bureau of Standards の合同観測隊が撮影した閃光スペクトルの測

定結果で、3300 Å~9100 Å の輝線約 3000 本について、波長・同定された元素名・高さに対する輝線強度の変化などの情報が詳細な表にまとめられている。

また日食外で観測した彩層輝線の表には、

- (15) The Chromospheric Spectrum Outside of Eclipse $\lambda\lambda$ 3040 to 9266 Å.

A.K. Pierce.

Astrophysical Journal Supplement Series
Vol. 17, No. 150 (1968)

がある。これには 1963 年から 66 年の間にキットピーク天文台の McMatch Tower で観測した 3046 Å より 9266 Å までの範囲の輝線約 11000 本の同定表で、輝線の波長・強度（眼による評価）・同定・Multiplet No. が記載されている。

学会だより

松永賞受賞候補者推薦について

松永記念科学振興財団より、下記要項にしたがって、松永賞受賞候補者を推薦されたい旨の依頼が学会あてにありました。適当な方がありましたら、6月20日までに学会庶務理事あてに御連絡下さいますようお願い致します。

記（昭和50年度松永賞贈呈実施要項抜萃）

1. 本年度の当財団の科学研究に対する褒賞「松永賞」は、自然科学（理学・工学系）の分野における基礎的研究で、学術上業績が顕著であると認められるものを対象とするが、個人的研究でも、共同研究でもさしつかえない。
2. 「松永賞」の対象者は大学に在職し、昭和5年12月1日以降誕生の少壮有為な科学者中から求める。
3. 「松永賞」は1口100万円とし、本年度は3名以内を予定する。